講義名	教養特講Ⅱ（プレゼンテーション技法実践）					授業形態	
担当教員	松岡　陽子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 １時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード	LBA139

主題と概要

前期『教養特講Ⅰ（プレゼンテーション技法入門）』では、あらかじめ固定された統一テーマに沿って実践を行いながら、いわばプレゼンテーション技法の「型」習得を目指した。それに続く本授業では、ビジネスパーソンとしての社会的実践により近い形での、プレゼンテーション技法の応用的展開を目指す。すなわち、より社会の現実を踏まえた企画や課題を受講生のみなさん自身が考案、発見して、情報収集・分析も自分たちで行いながら、独自のプレゼンテーションを構想し、実践していってもらいたい。
授業方法は『教養特講Ⅰ』を踏襲し、グループワーク（協働学習）を中心に進める。

到達目標

1. 仲間と協働しながら、企画を立案し、それを効果的に提案するためのプレゼンテーションを実践できるようになる。
2. 仲間と協働しながら、解決すべき課題を発見、整理して、その論点・解決策をわかりやすく提示するためのプレゼンテーションを実践できるようになる。
3. 様々な目的に応じ、すでに習得した諸技法を応用的に展開しながら効果的なプレゼンテーションを構想できるようになる。

提出課題

主要課題は以下1.から3.。その他、授業中を含めて課題提出を適宜、求める（4.）。

1. 中間課題①（企画プレゼン）：作成資料（スライド等）、振り返りレポート
2. 中間課題②（課題プレゼン）：作成資料（スライド等）、振り返りレポート
3. 期末課題（スピンオフ・プレゼン）：作成資料／レポート　等
4. その他：授業中の提出を含む諸課題（相互評価シート等）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間課題①②の作成資料に関しては、全体に向けてグループごとの評価・講評をフィードバックする。併せて、受講生同士の相互評価結果もフィードバックする。

評価の基準

以下の配分を目安とした総合評価を行い、総計60点以上を「合格」とする。ただし総計60点以上であっても、「授業の3/1（5回）以上を欠席した」場合、「以下1.から3.のうちいずれか１つでも0点であった」場合には、原則として「放棄／不合格」とする。

1. 中間課題①：計25点（%）
2. 中間課題②：計25点（%）
3. 期末課題：35点（%）
4. その他（上記以外の課題提出状況、授業への参加度、等）：計15点（%）

履修にあたっての注意・助言他

常識的な受講マナーの遵守を求める。
また、グループワークを組み込んだ本授業では、各自が「主体」的に仲間との協働にあたることが肝要となる。そのことも十分理解したうえで履修していただきたい。

なお、遅刻は15分を限度とし、それ以上は「欠席」として扱う。やむを得ない事情により欠席する場合は「欠席届」を提出すること（履修要項等を参照）。

教科書

.使用しない。.				

参考図書

.授業中に適宜、紹介。.				

その他

授業中に適宜、プリント・電子ファイル・動画資料等の配布、共有、紹介を行う予定。

授業計画

1.・オリエンテーション：本授業・学修の進め方、成績評価の方法、等
　・イントロダクション："よいプレゼンテーション"とは　実践のテーマと評価項目・基準
2.グループワークに向けてⅠ：アイスブレイキング　ディスカッションしてみる
3.企画提案のプレゼンテーション①：テーマの選定　情報収集・分析　企画立案
4.企画提案のプレゼンテーション②：発表準備　スライド・レジュメ（ハンドアウト）について
5.企画提案のプレゼンテーション③：発表準備　読み原稿・リハーサルについて
6.企画提案のプレゼンテーション④：実践（グループ発表・質疑応答、相互・自己評価）
7.企画提案のプレゼンテーション⑤：相互評価に基づく優秀グループの選出　振り返りと総括
8.グループワークに向けてⅡ：（新グループでの）アイスブレイキング　ブレインストーミングとKJ法
9.課題提示のプレゼンテーション①：テーマの選定　解決すべき課題の発見・抽出
10.課題提示のプレゼンテーション②：課題整理・精錬と情報収集・分析　発表準備
11.課題提示のプレゼンテーション③：発表準備　質疑応答について
12.課題提示のプレゼンテーション④：プレゼン実践前半（グループ発表・質疑応答、相互・自己評価）
13.課題提示のプレゼンテーション⑤：プレゼン実践後半（グループ発表・質疑応答、相互・自己評価）
14.課題提示のプレゼンテーション⑥：相互評価に基づく優秀グループの選出　振り返りと総括
期末課題について：独自にポジ企画・課題を復活させたり、派生の企画・課題を立ち上げたりして、プレゼンを組み立てる（スピンオフプレゼンテーション）
15.総まとめ：授業全体の振り返りと総括　課題（確認）・授業改善アンケート等について

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
○	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習として、
・プレゼンテーション実践（発表）の準備：情報収集・分析や、スライド等の発表資料作成、リハーサルを含む
復習として、
・実践の振り返り（小レポート作成）
・期末課題
等の準備学修に、週あたり平均4時間程度以上を要する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の修得を通じて、全学共通のディプロマポリシーである、次の力を身につけることができる。
（知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材）
・課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力)
・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力）
・現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる（課題発見力）
・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる（構想力）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

受講生のプレゼン実践に関する取り組みそのものが骨子となるという意味で、本授業は本質的に双方向型である。
また技術的にも、オンラインによる動画共有システムやアンケート（クリッカー）といったICTを積極的に活用することにより、授業の双方向性、および授業内外の学習の促進・効率化を図る。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考